

一般質問の全文は、「会議録検索システム」で読むことができます。
インターネットで「小川町議会 会議録」と検索してください。



事務手続簡略化を
とにかく頼むよ。

おおとひさかず
大戸久一が問う

思い切った老人 会対策を

Q 会員数の減少・原因を探り、会員増強を行なう方法は。

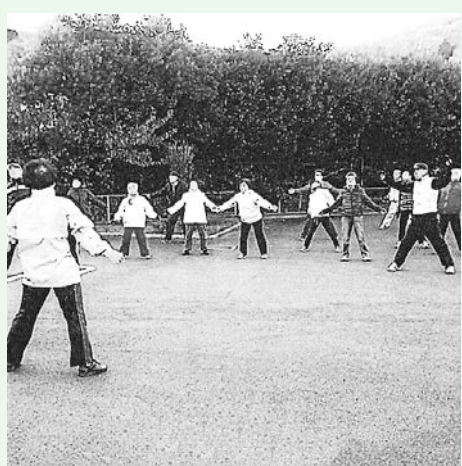
A 長生き支援課長 平成23年度の加入率37・4%に対し、平成28年度は20・3%です。原因はライフスタイルの多様化、現役で活躍している方の増加、地域意識の低下、老人会の魅力の低下等が考えられます。会員増強には、各老人会が原因を究明し対応していくことだと思われま

Q 老人会組織の解散を防ぐ方法は。

A 長生き支援課長 老人会の数は平成23年度76行政区中53組織で70・7%、28年度は76行政区中39組織で51・3%と減少傾向にあります。原因は、「役員のなり手がいない」「庶務が煩雑で大変だ」と聞きます。解散を防ぐには加入者を増やすことが急務です。

Q 町の果たすべき役割は。

A 長生き支援課長 町では連合会、単位老人会への補助金、各種大会、講演等に支援を行なっています。今後、健康づくり事業など老人会活動に期待が高まる中で、これまでの支援にとどまらず、問題を連合会や長寿社会運営協議会等と検討し、老人会の一層の活性化を図っていきます。



下小川一区老人会主催の朝のラジオ体操。



健康寿命延伸には
運動と食事等の生
活習慣が大切。

たなかてるこ
田中照子が問う

安全・安心で健 康寿命日本一を

Q 高齢者が参加しているスポーツの支援相談体制と、各団体からの要望は。

A 生涯学習課長 グラウンドゴルフ、ゲートボール、ラジオ体操、ウォーキングなどです。支援としては、大会の開催や運営費補助等です。要望は、グラウンドゴルフ協会からグラウンドの芝生化等の要望がありました。

Q 高齢者が安全にスポーツできる環境整備や、町民の憩いの場としての芝生広場の設置を強く望むが、計画は。

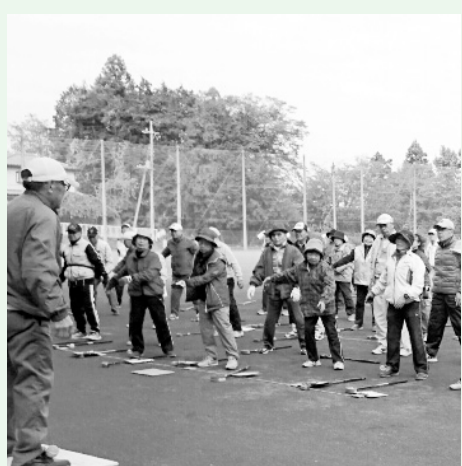
A 町長 今後、さまざまな面から研究します。

Q 「元氣アップおがわプラン」の食育推進計画の具体的な取り組みと、離乳食に関する相談内容と回数は。

A 健康福祉課長 新しく和食を中心に、「親子クッキング」を2年間実施し、参加者も増えています。町の給食では、地産地消を推進し、野菜づくり体験などについて学び、関係各課で食育を推進。さらに、健康長寿ウォーキング事業でも栄養指導教室を実施しました。離乳食の相談内容は多岐に渡り、現在、離乳食体験は年5回です。

Q 町民の安全確保のため、劣化が進む町道8094号線の改修を。

A 建設課長 国道254号歩道整備時に補修を考えています。



グラウンドゴルフの大会前に準備運動をする元気な高齢者は、現役世代の手本です。



環境省は、小川町
の環境活動を高く
評価していますよ。

かねこよしのり
金子美登が問う

森里川海プロジェ クトの参加は

Q 環境省の「森里川海プロジェクト」への参加は。

A 環境農林課長 このプロジェクトは町が目指す「里山文化が育んできた自然を愛する持続可能なまち おがわ」に通ずるものと考え、今後取り組みます。

Q 過度の開発等で荒廃する森・里・川・海。人口減少や高齢化が進行する中でどのように管理し、地方創生につなげるのか。

A にぎわい創出課長 去る1月19日に、小川町・寄居町・東秩父村の3町村

と、和光市との間で相互交流に関する共同宣言を行いました。当町は事前協議において、和紙の紙すき体験や農作業体験を提案しました。今後、和光市との協議を進める中で、交流人口の増加につなげていきたいと考えています。

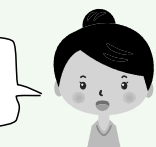
Q 今年も開催が決まっている「小川町オーガニックフェス」だが、環境省からの問い合わせ等は。

A 環境農林課長 昨年9月に小川げんきプラザを会場として、実行委員会と環境省の共催、町は後援として実施されました。そして、今年2月には環境省の担当職員から電話連絡を受け、「ことしも共催の方針が示され、開催地である小川町へも説明に出向きたい」旨の連絡を受けています。



地元ボランティア「刈援隊」により、よみがえった下里の滝前。

八和田神社。大杉もすばらしいが、狛犬も特徴的。



(C・Hさん・43歳)

螢の里。幻想的だと感激されました。



(S・Nさん・52歳)

仙元山を中心とした山道は、トレイルランニングをするには最適の場所。最近では有名選手も足を運んでいますよ。



(H・Sさん・43歳)

Mini Column

オガワマチのこと
ギカイのこと
一緒に見よう、考えよう
「小川町のおすすめ
スポット」